



選手たちは狙いを定めて思いっきりバットを振った

子ども会がソフトボールで交流

柳川校区子ども会 フレンドリーソフトボール大会

9月2日、大和B&G海洋センターグラウンドで第7回フレンドリーソフトボール大会がありました。これは、柳川校区内の子ども会の交流を目的に毎年開かれています。大会には16チーム、約250人が参加。選手たちは、応援に駆けつけた保護者などの熱い声援を受けて、各コートで熱戦を繰り広げました。大会の結果は、柳河1分団が見事優勝に輝き、両開Bが準優勝、昭代宮上子ども会と昭代七ツ家子ども会が3位に入りました。

火遊びは絶対にしません

幼年消防クラブ 防火教室

毎年9月1日は「防災の日」。市消防本部は、9月に市内の幼稚園や保育園で防火教室を開催しました。ポッポ幼稚園では9月5日、1階から出火したと想定して避難訓練を実施。火事を知らせるベルが鳴ると、園児たちは煙を吸わないように、手で口を押さえて教室から避難場所へ移動しました。その後、火遊び防止や火事の恐さを教える映画を見た児童たち。最後に「火遊びは絶対にしません」と元気よく宣言しました。



手で口を押さえ避難場所で待機する園児たち



アフガニスタンの現状を訴えた中村さん

アフガニスタンの現状を伝える

NGO「ペシャワール会」現地代表 中村哲講演会

アフガニスタンで医療活動をしている医師の中村哲さんの講演会が8月31日、水の郷ホールでありました。福岡県出身の中村さんは、1984年から、現地で医療活動を続けています。しかし、「薬ではなくまずは十分な水が必要だと考えるようになった」と中村さん。そこで8年かけて約25kmものかんがい用水路を現地に整備しました。今では、かつて砂漠だった土地で田植えができるまでになったそうです。最後に「安心して水が飲める地域をさらに増やしていきたい」と思いを語りました。

僕たちがデザインしたんだよ

有明海沿岸道路「橋名板」取付式

有明沿岸道路の大和南ICから徳益IC間3.2kmの開通を間近に控えた9月3日、同道路で「橋名板」取付式が行われました。地域の子もたちに愛される道路にしようと、国土交通省福岡国道事務所が、開通する区間近くにある市内4つの小中学校に橋名板のデザインを依頼。応募した117人の中から14人のデザインが選ばれました。橋名板をデザインした大和中学校1年の森田翔矢君は、偶然にもこの日が13歳の誕生日。「誕生日にとってもいい思い出ができました」と笑顔を見せました。



取付式の日が誕生日だった大和中学校の森田君

◆ 盆 疲れ杖を重たく感ずる日
俳句を募集しています。選句者は大曲鬼郎さん。10月の課題は「一月「真菰の花」です。入選作品は10月15日号に掲載します。● 応募方法 俳句と明記し、自作、未発表の作品(※1人3句以内)に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクスまたは直接、柳川庁舎企画課広報係(☎77・8425、FAX74・5520)へ、9月28日(※必着)までにお送りください。

鬼郎

◆ 盆 盆やけんゆつらつとして帰らんね 山田美代子(下宮永町) のうぜんのもたわりついで武家屋敷 古賀俊郎(新外町) 盆用意涼しい内に磨きもの 田中興志子(六合) 盆休み冷蔵庫の忙しさ 西山幸子(垂見) 夜行バス夫と見送り盆終る 谷 祥子(柳町) ご無沙汰を癒すお盆の里帰り 大橋弘茂(百町) みやびなる天女の舞や凌霄花 後藤正毅(金納) 盆参り先ずは出水の話題から 坂田信幸(鷹ノ尾) 虚しさよ盆提灯を仕舞うとき 黒田和代(吉富町) 老木の命華やか凌霄花 古賀治美(南浜武) おかえりとだんご作って霊迎え 河口廣子(白鳥) 凌霄花風にゆらゆらたわむれて 原田アツ子(栄) さわやかにそらいの浴衣盆おどり 甲木幸栄(中島) 新盆や提灯飾り待つ君を 塚見和恵(蟹町) 寺町の路地のうぜんの花明り 高田ひでこ(佃町) 御先祖をウチワで招くお盆かな 萩尾法子(七ツ家) 下向きに凌霄花の風に揺れ 藤吉トシ子(佃町) 屏高く這い登り咲く凌霄花 樽見一枝(蒲生) 美しく老いてゆきたい盆供養 森永孝英(七ツ家) 孫二人右往左往の盆用意

◆ 句評 毎年盆が来れば、僧籍にあられた河野静雲先生の句集『閻魔』に収められている「盆布施のきはつてありしちとばかり」を口ずさむことに。序文を書かれた高浜虚子先生は、この句をとり上げ俳諧味が豊かな点を称讃されています。 本月の美代子さんの盆の句、何よりも言葉で思いをつづられたところがよかったです。



約7000発の花火が夏の夜空を彩った

12万人が夜空に咲く大輪の花に喝采

第14回有明海花火フェスタ

8月26日、むつごろうランドで第14回有明海花火フェスタが開催されました。昨年は、東日本大震災があったため、同フェスタは中止に。今年は、柳川の夏を盛り上げて、九州北部豪雨の被災地を激励しようといわれました。花火の打ち上げ前には、沖の石太鼓やダンス、ライブなどが披露され会場を盛り上げました。午後7時30分になると、会場の明かりが消され、花火の打ち上げが開始。集まった12万人は、約7000発の花火と全長1500メートルのナイアガラに酔いしれました。